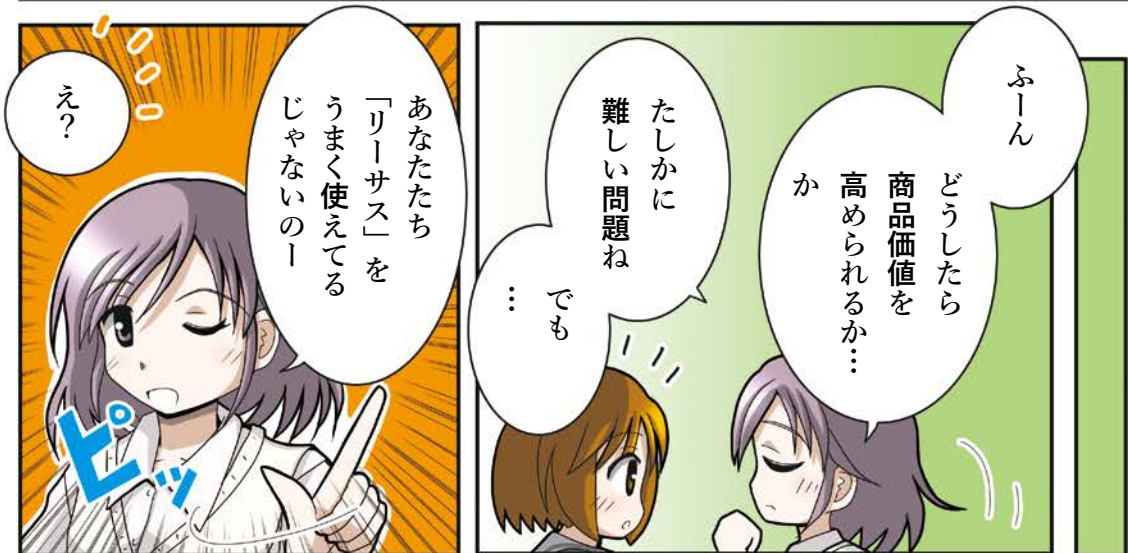
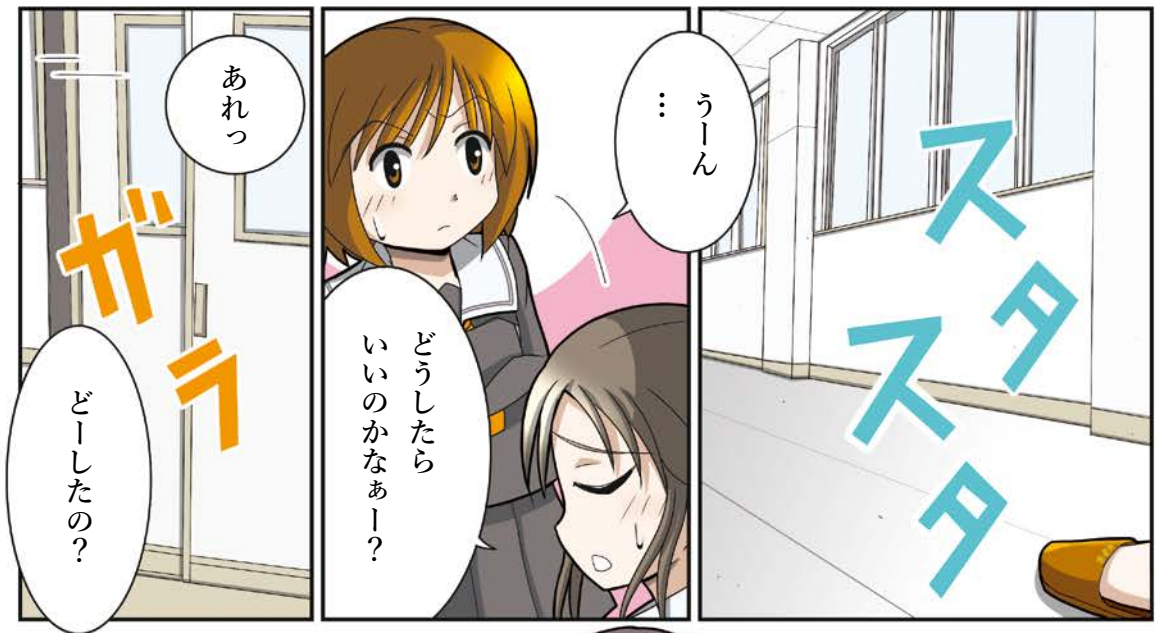
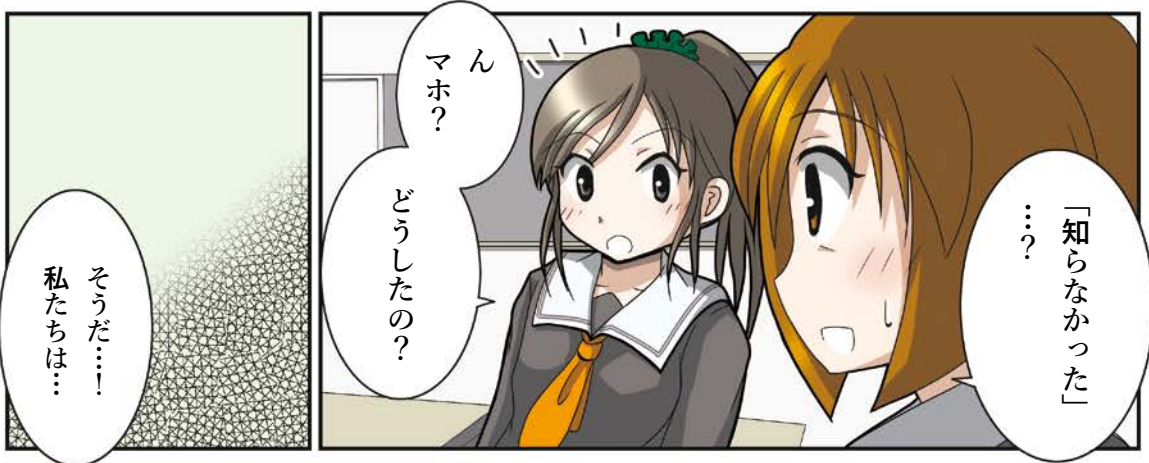








じゃあ
実際の観光客の
数と…

三 観光マップ
人口マップ
地域経済循環マップ
産業観光マップ
企業活動マップ
観光マップ
まちづくりマップ
雇用/医療・福祉マッ
地方財政マップ

そしてどこから
多く人が訪れて
いるのかを
調べてみよう



「リリース」は
観光データも
調べることが
できるんだ

うっわーっ？

なんでも
アリだねー！

まあ
「知られていない」
ってことが
最大の原因だよなー

あとさー
外国人観光客も
少ないよなー

遠いところ
からは…
ほぼ来てくれ
てないですね…

…
やっぱり…

「どうしたら
知ってもらえるか？
どうしたら
来てもらえるか？」

この「リリース」で
得た現状を踏まえて
観光プランを考えて
いこうよ！

どう？
思ってた以上に
「知られてない」
ってことを知った
よねー？

つまりここに
課題があると
思うんだよ！

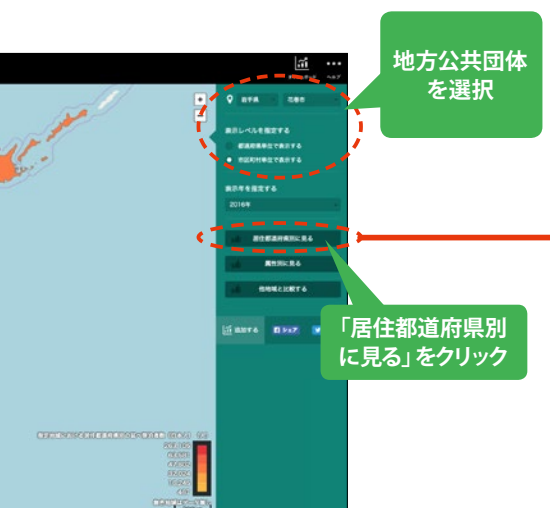
おーっ！

よしっ！
じゃあどんどん
「リリース」を
使って調べてみよう！

こうして
イノベーション部は
「リリース」に
よって動き出した
のです！

がんばれー！

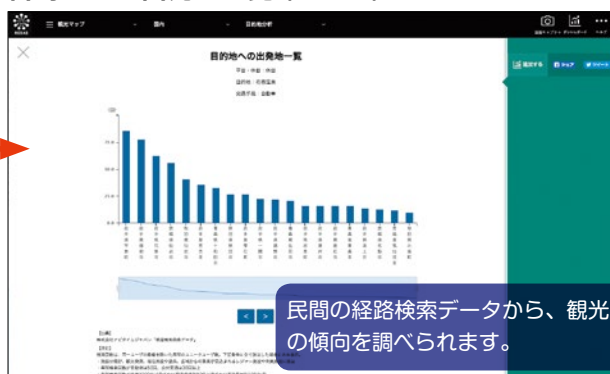
リーサスの観光マップでは、政府の統計調査だけではなく、ホテル等の宿泊データや、携帯電話の位置情報など、民間データによって観光客の行動を「見える化」しています。ここでは、「観光マップ」の画面を呼び出す手順を見てみましょう。



居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合



目的地への出発地一覧（グラフ）



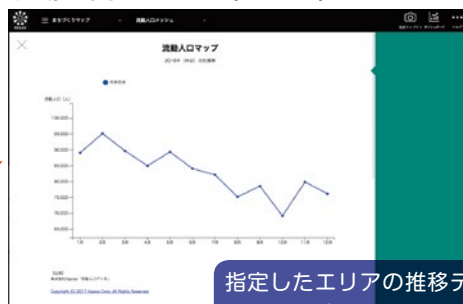
流動人口メッシュ（マップ）



流動人口が色分けて表示され、人が集まる地域を調べることができます。



流動人口メッシュ（グラフ）



リーサス『観光マップ』の使い方

“RESAS” で検索

RESAS

検索

(<https://resas.go.jp/>)

トップページ



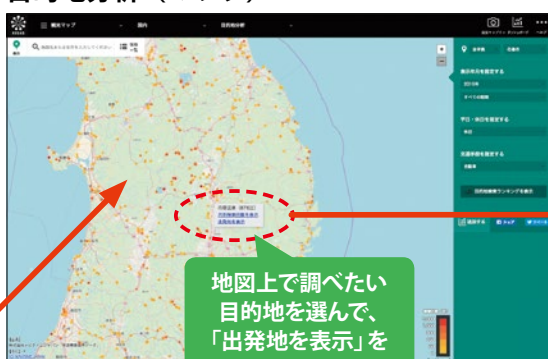
From-to 分析 (宿泊者)



マップ選択画面



目的地分析 (マップ)

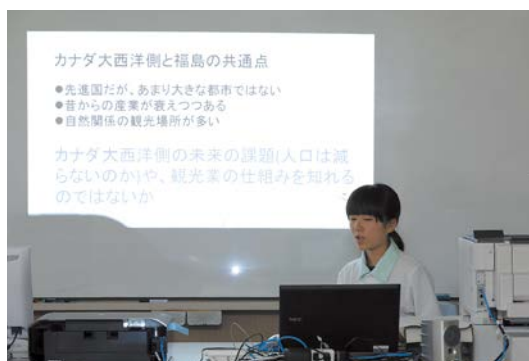


「まちづくりマップ」には、スマートフォンアプリ利用者の GPS データから、人の動きを分析できるデータがあります。観光地周辺の分析にも使えます。



同じやり方で、「まちづくりマップ」の「流動人口メッシュ」を選択

リーサスを活用して地域を知る、地方創生を考える 福島市立岳陽中学校イノベーション部の活動



まんがのモデルになった福島市立岳陽中学校イノベーション部は、東北、福島の地方創生を考える活動に取り組んでいます。

その中で、政策アイデアづくりに欠かせぬツールとして活用しているのがリーサスです。

「地方創生☆政策アイデアコンテスト2015」で地方創生担当大臣賞に輝いた部員の皆さんに、リーサスとの出会い、リーサスの日常的な活用のしかたについて聞いてみました。

イノベーション部はどんな活動をしているのですか？

山貝 地方創生のために中学生に何ができるかを考えて実践します。主に福島市のことを調べてわかったこと、理解したことを発信しています。3年間の特設部で、来年の夏に行われる国際ラウンドテーブルのために東北の創生についての提言をまとめることが大きな目標です。

今日の活動でもリーサスを活用していましたね。使い始めたきっかけはなんでしょう？

八巻 去年、角田先生の紹介で「地方創生☆政策アイデアコンテスト2015」に参加することになり、そのとき初めてリーサスのことを知りました。

このコンテストはリーサスが起点となります。すぐに使えるようになりましたか？

渡辺 すぐ慣れました。リーサスは誰でも使えます。画面を見れば自然にわかるようになっていきます。

山貝 戸惑ったのは単語ぐらいですね。メッシュ分析って何だ？とか。それら使ってみれば「ああこういうことか」ってなりますけど。

皆さんはパソコン操作が得意ですか？

加藤 そういう人もいますが、ほと

んどの部員は苦手ではないけど特別得意というわけでもありません。リーサスを使うにはそれでOKです。
リーサスを扱うのは難しいのでしょうか。皆さんは、うまく使いこなせましたか？

関 まず福島の人口や産業、観光について、基本的なことをリーサスで調べました。私は東日本大震災の影響で福島に来る観光客が減ったのかと思っていました。結果はちよつと意外で、その前から観光客は減少していたことがわかりました。
八巻 果物の生産も同じです。農林水産業マップで果樹類の販売金額を調べたら、震災前から減っていて驚きました。

糸口が見つかったのですね。

八巻 リーサスでさらに他のデータ



を調べていくと、少子高齢化で農家の後継ぎがいなくて生産者が減っていることがわかってきました。
—————

加藤 ひととおり調べたところで、結果をみんなで共有して話し合いました。私たちは思いついたら何でも言うことにしていて、それを「つぶやき」と呼びます。つぶやきは大事で、どんよりし始めたときに誰かのひとことと話が進み始めたりします。
八巻 今回も「おやつで桃とか梨食べないよね」という誰かの言葉が、「生産量の減少には食の変化も関係あるかも」という気づきにつながりました。
リーサスで確認した傾向を現実の世界につなげていく部分ですね。

佐藤 実際にどうなっているのかは、その仕事をしている人に聞いてみないとわかりません。それで、農業や





観光に携わっている人から聞き取りをしたりしました。

渡辺 話を聞くと、リーサスだけではわからないことが見えてきます。飯坂温泉で観光協会の方を取材したとき、「観光客は減っているが、今は除染作業員の人たちが部屋は埋まっている。問題はそれが終わった後なんだ」というお話がありました。

——*——*——*——*——*——

コンテストの準備は順調に進みましたか？

関 いろいろ準備したのですが、プレゼンテーションの時間が5分なので、絞り込みが大変でした。コンテ

スト当日も新幹線が東京に着くぎりぎりまで、何度も時間を計って練習を繰り返しました。

加藤 パワーポイント担当の先輩も、いかに情報を絞って見やすく伝えるか、リーサスのグラフの配置などを何度も手直していました。

本番は思い通りにできましたか？

渡辺 みんなで準備したことをやり切らなければという思いでした。全員とても緊張したし、小柄な八巻さんが時計が見えなくて焦る事件もありましたが（笑）、最後は先輩がうまくまとめてくれました。

関 高校生の発表はみんなレベルが高かったので、大臣賞を受賞した時は本当に驚きました。

みごとな成果でしたね。その後のイノベーション部の活動はどうなっていますか？

佐藤 目標だった福島市の魅力を伝えるツアーを実現し、みんなでガイドを務めました。私は人と話すのが得意なほうではありませんが、参加してくれたお客さんに満足してもらいたくて必死でやりました。皆さんが反応してくれるので気持ちが楽になって、思ったよりうまく話すことができました。当日は大雨になってしまったのですが、お客さんたちには楽しんでいただけたかなと思います。

成長し、郷土への思いを深めた生徒たち

福島市立岳陽中学校 角田直之先生

「地方創生☆政策アイデアコンテスト2015」への参加は、それでも多忙な中学生たちにとって不安な挑戦でした。しかし彼らはそれを最高の形でやり遂げました。

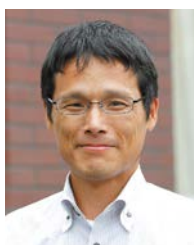
なぜできたか？ 思えば三つの要因が浮かびます。

第一に、リーサスが想像以上にわかりやすく、全員がすぐに使いこなせたことです。問題点の把握と次への展開がスムーズに進みました。

第二に、目標を得た生徒たちの熱意です。限られた時間で全員が本当に最善を尽くしました。

第三に、中学生の間から「きれいなことではなく、実行できる提案をする」という方針が出てきたことです。これにより作業の方向性が明確になり、審査でも評価していただき、大会後の福島市紹介ツアーの実践にまでつながりました。

部員たちに成長の機会を作ってくれた皆さん、惜しまず協力してくださった方々に感謝します。彼らはこの挑戦で郷土への思いを深めました。



山貝 今は地方創生についての提案づくりが続いています。リーサスを使っているうちに、グラフを動かしながら「何でこうなのかな」と、現実とのつながりを考えるようになってきました。

加藤 リーサスはとても便利です。市町村のデータも出るし、他の町との比較もできるので、いろいろな思いつきがあります。

八巻 まだ気づいていないことがたくさんあると思うので、これからの活動が楽しみです。

熱い挑戦を！ 地方創生☆政策アイデアコンテスト

主催：内閣府地方創生推進室

地方創生☆政策アイデアコンテスト 2015 では、福島市立岳陽中学校が大臣賞（高校生以下の部）を射止めました。本コンテストは、2016 年以降も開催しております。全国の大学生、高校生、中学生、そして社会人の大人の皆さんも、リーサスを武器に、この心と知力の競演にぜひ参加してください。地域を元気にする多彩な政策アイデアの登場を期待しています。

※以下は、「地方創生☆政策アイデアコンテスト 2017」の内容です。

- 募集区分**
- (1) 高校生・中学生以下の部
 - (2) 大学生以上一般の部

条 件 必ずリーサスを活用し、その分析に基づいた政策アイデアを提案すること

審査プロセスとスケジュール

- 応募受付 平成 29 年 9 月 1 日（金）～ 10 月 25 日（水）
※コンテストウェブサイト内の応募フォームより
- 地方予選 平成 29 年 10 月 26 日（木）～ 11 月 16 日（木）

全国の 7 つの地域で書類選考を実施

- ① 北海道・東北（北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県）
- ② 関東（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県）
- ③ 北陸・中部（富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県）
- ④ 近畿（福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）
- ⑤ 中国（鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県）
- ⑥ 四国（徳島県、香川県、愛媛県、高知県）
- ⑦ 九州・沖縄（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）

→ 各地域から各部門 3 組が全国大会に進出（各部門 3 組×7 地域＝ 21 組 両部門計 42 組）

- 全国第一次審査 平成 29 年 11 月 17 日（金）～ 11 月 29 日（水）

書類審査を実施

→ 各部門 5 組（両部門計 10 組）が最終プレゼン審査に進出

- 最終審査会 平成 29 年 12 月 16 日（土）

会場：東京大学 伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール
各部門 5 組（両部門計 10 組）のプレゼンテーションを実施

※書類にプレゼンの評価を加味して各部門の地方創生担当
大臣賞 1 組、優秀賞 1 組を決定



地方創生担当大臣賞 福島市立岳陽中学校 岳陽中学校イノベーション部 中学生の視点から地域の魅力を再発見し、観光プランを作る

2015 年のコンテストで地方創生担当大臣賞を受賞した福島市立岳陽中学校の政策アイデアはいかにして作られたのか。

イノベーション部員たちは自らの仮説を出発点として、まずリーサスを使って、福島市の果物の生産と人口の変化について調べました。すると、予想とは違う現実があるらしいことがわかりました。ここで彼らは現場に繰り出して人々から話を聞きます。そうして得た情報を確認するために再びリーサスに戻って、今度は観光について調べます……。

このようにリーサスと独自の調査活動を往復しつつ、現状把握を深めていくことで、中学生の視点を生かした魅力的な観光プランの提案に到達しました。

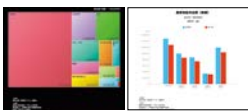


1 出発点の仮説

福島市はおいしい果物がたくさんとれるし、近くに魅力的な温泉もある。観光業は盛んにはずだけれど、震災の影響で果物の収穫も観光に来る人も減ってしまったのではないかな。

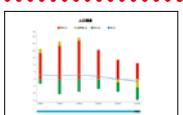
2 リーサス「農林水産業マップ」で確認

わかったこと「震災の前から福島市の果樹類の販売金額は減っている。福島市に限らず、県内の他のまちでも減っている」



3 リーサス「人口マップ」で確認

わかったこと「福島市の人口は 2000 年過ぎから減り始めた。しかも、いちばん減っているのは生産年齢人口だ。果物を生産している農家の後継者がいないのではないかな」



4 聞き取り調査

地元の農家、農協の人、飯坂温泉観光協会の人に話を聞く。
わかったこと「後継者難の確認、果物の消費が減っていること、旅館には観光客ではなく除染作業の人たちがいること」

5 政策アイデアの芽

福島の名産品、果物と観光を結びつけた活動ができないかな。

6 小中学生アンケート調査

テーマ
「地元の子供たちは福島市を知っているか」
結果
「よくわかっていない。自分たちもそうだ」

7 リーサス「観光マップ」で確認

福島市に来る観光客は近隣の県、関東と東北からがほとんどだ。海外の観光客は東京には来るが福島には来ない。それどころか、西日本の人もあまり来ない。
結論
「福島は知られていない」



8 政策アイデア確定

中学生の視点で「福島市の魅力あふれる旅行プラン」を作成。実行して自分たちがガイドも務める。

目的
「まず自分たちが福島市を知る。そして、ツアーを通じて福島市の魅力を知ってもらう」

優秀賞 大口明光学園高等学校・チーム高 2 B

「“ さん出会い、牛さあつなぎもす ” プロジェクト」

鹿児島県伊佐市の重要産業である肉牛の子牛の生産を守るプロジェクトの提案です。

耕作放棄地を利用して牛を飼ひ、ネットによる遠隔管理で作業効率を上げます。こうして魅力ある仕事にしたう

えで従事する若者を募集します。シェアハウスを提供して居住してもらうことでカップルの誕生を促し、結婚→出産となれば、人口減少への対策にもなります。牛の飼育が軌道に乗るまでは高校生が遠隔管理にあたります。

佐渡市の取組

新潟県佐渡市
人口：57,768人
面積：855.61 km²
(2016年9月1日現在)



リーサスはすでに地方公共団体でも活用が始まっています。地方公共団体にはより緻密な、地方創生の施策づくりに直結するデータが提供されています。しかし、リーサスと現実の間を往復しつつ政策を練り上げるプロセスは、岳陽中学校イノベーション部の場合と本質的に同じです。リーサス活用に熱心な地方公共団体の一つである新潟県佐渡市のケースを見てみましょう。

豊かな自然に恵まれた佐渡市をもっと元気にするために——リーサスへの期待

佐渡市 伊藤 光 副市長

「トキのすむ島」佐渡は豊かな自然に恵まれています。名高いコシヒカリに代表される農業、寒ブリで知られる漁業など、第一次産業の生産力も健在です。さらに、世界遺産登録をめざす佐渡金銀山というよく管理された文化遺産も有しています。

その一方で、離島という条件からくる交通、流通面でのハンデをどう乗り越えるかが課題としてのしかかっています。

こうした状況に対処する施策を構築するには、正確で鮮度の高い情報が必要です。私たちはその意味でリーサスに大きな期待をかけています。リーサスは「情報過疎」になりやすい地方の状況を改善するだけでなく、政策立案に欠かせない様々なデータ処理の機能が充実しており、担当者にとって活用し易いところが優れた特徴であると感じています。実際に、導入わずか一年で、これまでにない政策を立案し、実行に移すことができました。これは期待していた成果を生んでいます。

リーサスにはまだ様々な可能性が隠れています。今後はその活用の幅を広げ、より精度の高い振興策を打ち出していければと考えています。



リーサスを起点に佐渡市の現在と未来を考える

佐渡市役所 総合政策課 地方創生推進室
岩崎 洋昭 室長／中川 拓也 主任



Q

佐渡市がリーサス活用に熱心に取り組んできたのはなぜですか？

これまでの施策策定は頼るべきデータベースがないために、経験や勘に頼る部分がありました。状況を正確に把握するには客観的なデータを用いる必要があることを痛感していたので、リーサスには期待していました。平成25年4月に提供が開

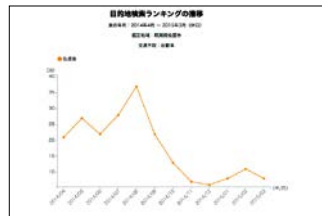
始され、実際に使ってみると、数値の裏付けによって課題が明確に見えてきます。あらゆるデータを使うことができるので政策立案もし易くなり、非常に役立っています。ただしリーサス自体にも、データの鮮度（最新とは限らない）、母数が項目によって少ないことなど課題があると思います。こうした点が改善されていくのを待ちたいと思います。

Q

リーサス活用がどのような施策を生んだか、具体的に教えてください。

佐渡市では観光振興が優先度の高い課題です。平成3年のピーク時120万人だった観光客が現在は50万人に落ち込んでいるのです。まずリーサスで現状を把握することからスタートしました。「観光マップ」機能を活用し、「メッシュ分析」

「from-to分析」「目的地分析」等で佐渡市を多角的に見ていくと、概ねこれまで経験的に感じていたことにデータの裏付けを得ることができました。しかし一方で、数字で厳しい現実を目の当たりにし、対策の必要性を再認識した部分もありました。また、項目によっては私たちの印象以上に事態が進んでいるものもありました。



検索ランキング月次推移。車で移動する人の佐渡への関心は夏場高いが、11～3月は落ち込んでいる。

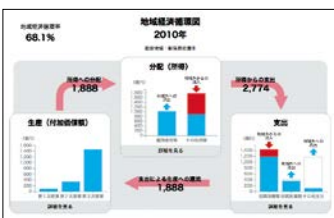
◀ 目的地分析 (観光マップ)

実際の立案プロセスを紹介しましょう。リリース「観光マップ」で鮮明に見えたのが冬場の落ち込みです。佐渡島は本州日本海沿岸地方に比べて冬は穏やかで、観光地としての魅力はあるはずですが、実際には集客できていませんでした。考えられる理由は2つ。主因はやはり冬の佐渡の良さが知られていない



こと、もうひとつは季節的に船の欠航リスクがあることです。そこで調査も兼ねて観光ツアー「佐渡冬紀行」を官民の協力で企画しました。特産品のベニズワイガニや高級魚ノドグロを賞味できる宿泊プランで、トキの森公園、佐渡金山等をめぐるバス観光のオプションもあります。欠航保障もつけました。結果は予想以上の盛況で好評をいただき、打つべき手はまだあるのだと改めて認識しました。冬場に集客できれば通年の雇用改善、島の活性化につながるので今後も取り組みを続けていきます。

◀ 地域経済循環図 (地域経済循環マップ)



佐渡島のお金の流れを「見える化」。約1/3が島外に流出していることがわかる。



観光以外の分野の現状は
いかがでしょうか。

リリースの「人口マップ」「地域経済循環マップ」などを中心に分析を進めているところです。とりわけ「地域経済循環図」によって、島からお金

が外に流れ、還流してきているという経済構造の問題が明らかになりました。島内でお金が循環する仕組みを作る必要があると考えています。小回りの利く部分もある観光分野と違い、人口や産業は構造的な問題なので、腰を据えて取り組んでいくしかありません。具体的な施策の策定は今後の課題です。



佐渡市ではリリースの普及活動も積極的に行っていますね。

リリースの普及活動は、佐渡市の現状や課題を島民の皆さん、とくに将来を担う中高生に知ってもらうことを目的としています。リリースを媒介として、世代や立場を超えて問題意識を共有したいと考えています。



用すれば、観光客の動きをより精緻に把握し、有効な振興策を打つことができるでしょう。



これからのリリースの活用について、どのようなプランがありますか？

リリースをモデルとして、地域密着の独自のデータベース「佐渡版産業マップ」づくりに着手しました。現在、島内の4000事業所および島民へのアンケート、ヒアリングを実施しています。このデータベースの運用が始まれば、地域経済行動分析を行って、懸案の産業振興策の策定に進むことができます。当市は地産地消のしくみが不十分なので、まず、そこに取り組みたいと思います。